

2020/11/12

(うと Q 世話し 「大胆にして細心」は「細心故大胆」?)

「大胆にして細心」

自分の記憶では、この言葉は、今は亡き映画の巨匠黒澤明監督を形容するのに用いられた言葉であったと思っております。

しかし自分はこの言葉を学生の頃に耳にして以来、何となくその語並びに違和感を覚えておりました。

まあ、大胆でもないし細心でもない一介の「カリー屋風情 (ふぜい)」が異議をさしはさむのもおこがましいのですが、違和感を覚えると、どうにもその正体を知りたくなくてあれこれ考えてしまうのが自分の質 (たち) なので致し方ありません。

それでは何に違和感を覚えたのか?

それは「にして」を「且つ」と置き換えてみた場合、相反する二つの概念である「大胆」と「細心」が「同列」に置かれているのに違和感を覚えたようなのです。

そもそもそんな対立項が都合よく同時併存するなど「言葉の遊び」にしか過ぎないのではないか?

「巨匠の映画作品を売るために広告屋が考え出した、お決まりの煙巻き文言ではないのか?」

という疑いが違和感を覚えさせて居たのだと、つい昨日まで自分なりに、そう解釈していたのですが、今朝、不図

「これは対立項ではなく「順番」になっているのではなかろうか?」と思い当たりました。何故、そう思ったかといえば、単なる思い付きですが「時間軸」を充て嵌めてみたのです。そうしましたらまず、細心と大胆の順番が入れ替わり、その上であるストーリーが浮かび上がりました。

曰く

「大胆にして細心」ではなく

「細心だったから大胆になれた」と。

細心というのは「用心深い」(監督の作品に「用心棒」というのがありましたっけ) という意味では無論なく「小さな変化にも的確に気が付く鋭い観察眼」と置き換えてみた時に何となく見えてきました。

「細心、即ち観察眼の積み重ねが、より多くの情報を収集させ、それが膨大なデータ量となって、一見周りからは大胆に見える決断や判断を行わせる。しかしそれは周りからは大胆に見えるはするが、本人からしてみればデータに基づいた必然の結果 (判断と実行) である」という風に見えました。

ですので「大胆にして細心」は「細心だったが故に大胆になれた」というのが、語呂は悪いですが正しい解釈なのではないかなあ? と思った次第です (語呂をよくするなら「細心故大胆」でしょうか)

こんな事ばかり日長一日考えているので、儲かる訳がございません。
しかるに止まらない。困りました。